

米ファイアフライ、 「北海道スペースポート」で打ち上げへー実現性検討で合意



宇宙港「北海道スペースポート（HOSPO）」を運営する SPACE COTAN（北海道大樹町）は、米 Firefly Aerospace との間で同社が開発するロケット「Alpha」の HOSPO からの打ち上げに向けた実現性検討で基本合意書（MoU）を締結した。8 月 18 日に発表した。

SPACE COTAN は、射場運用コンセプトの定義、射場システム要求の検討、HOSPO から Alpha を打ち上げるために必要なライセンスや規制要件を評価する。

Alpha は 1000kg 以上の貨物（ペイロード）を地球低軌道（LEO）に投入できる性能とされている。米カリフォルニア州のヴァンデンバーグ宇宙軍基地に加え、バージニア州のワロップス飛行施設、スウェーデンのエスレンジ宇宙センターでも打ち上げ場所の構築が進められている。

HOSPO は北海道大樹町にある商業宇宙港。東と南に広がる海域や拡張性の高い陸地など多くの地理的優位性があると説明。現在、準軌道（サブオービタル）飛行（「弾道飛行」とも言う）用の射場「Launch Complex 0（LC0）」が運用されており、新たに軌道投入ロケット用の射場「Launch Complex 1（LC1）」の整備が進んでいる。

Firefly の打ち上げ担当バイスプレジデントである Adam Oakes 氏は「Firefly は、世界中で高まる衛星市場の需要に応えるべく、即応性の高い打ち上げ能力の拡充を継続している。今回の MOU の締結で日本から Alpha を打ち上げる機会を検討できることを楽しみにしている。アジアのより広範な衛星産業に貢献できるだけでなく、実績のある軌道投入ロケットで米国の同盟国のレジリエンスを高めることができる」とコメントしている。

SPACE COTAN 代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO） 小田切義憲氏は「HOSPO は多様なロケットの高頻度打ち上げを目指しており、Firefly のロケットの HOSPO からの打ち上げに向けた実現性を検討する MOU を締結できたことを大変嬉しく思う。ロケットの打ち上げに適した大樹町の理想的な立地を生かし、多様な事業者の打ち上げをサポートすることで、宇宙産業の発展と地域活性化に貢献していく」と語っている。

台湾企業の日本法人 jtSPACE が開発したサブオービタルロケット「VP01」が 7 月 12 日に打ち上げられた。海外資本によるロケットの打ち上げは国内初となった。